

広報

まちづくり情報誌

# 小田原

city of odawara public relations



可能性の大地  
小田原

「小田原城天守閣」

朝焼けに包まれた関東唯一の天守閣。相模湾を望むそのシルエットは、新年の幕開けを鮮やかに演出します。

# 「新しい小田原」を市民の皆さんとともに



小田原市長

## 加藤 憲一

明けましておめでとうございませう。  
「持続可能な市民自治のまち」の  
実現・推進に向けて、  
本年もより一層励んでまいります。

「無尽蔵」  
二宮尊徳先生の言葉を胸に、市民の皆さんが持つ可能性、  
地域資源を最大限に生かしていきます。

使命と責任のもとに

世界的な金融危機や原油価格の高騰など  
人々の暮らしに不安を招いた昨年は、本市に  
おいても、解決すべき課題が数多く残る1年  
となりました。まだまだ先行きの見えない昨  
今ですが、そうした中で市長に選出いただい  
た私の使命と責任はとても重いものであると  
認識しています。市民が主役の市政実現に向  
けて、その課題を明確にし取り組んでいき  
たいと思います。

まず、地域経済の活性化。可能性を秘めた  
地域資源を最大限に利活用し、たくさんのか

たに小田原へお越しいただくことで交流人口  
の拡大を図ります。また、事業の優先度を明  
確にし、事業仕分け（行政と民間による事業分  
担の見直し）を行うとともに、行政のスリム  
化・効率化を図ると同時に行政サービスが低  
下しないように努め、市民生活に直結する緊  
急度の高い3分野（福祉・医療・教育）に重  
点的に取り組みます。

その他の課題も着実に

特に教育では、家庭・学校・地域が連携し  
たスクールコミュニティづくりを目指し、待

機児童、学童保育、学区の弾力化などの課題  
に取り組む、小学校低学年からの少人数教育  
実現に努めます。地域単位での防災能力の向  
上を高め、学校や各施設などの都市基盤整備  
を強化します。また、経済振興につながる芸  
術文化振興に向けたスタートラインとして、  
そのネットワークの充実も図ります。

また、2市8町の合併は、県西地域の豊か  
な地域資源の活用を図り、地域の総合力を一  
層発揮するためにも必要と考えており、引き  
続き各市町の首長とともに、合併検討会で議  
論を重ね、方向性を見出ししていきます。

誇りの持てる郷土づくりに向けて

「市民の力を生かす市政」として、市民と  
行政が一体となって取り組む重要懸案事項の  
解決に向けた4つの課題別検討委員会（地域  
医療、行財政改革、地域コミュニティ、小田  
原駅・小田原城周辺まちづくり）では、市民  
の皆さんが持つ知識と知恵を十分に発揮して  
もらい、未来につながる提案をしてほしいと  
思います。まさに、市民主体の運営の試金石  
です。そして、平成23年度にスタートする新  
たな総合計画の策定は、未来の小田原を創る  
ための設計図であり、本格的な市民参画のもと、  
全市を挙げて取り組んでいきます。平成21年  
度は重要懸案事項の解決に向けた取り組みを  
進めるとともに、「新しい小田原」を創り上  
げるための第一歩を踏み出すこととなります。  
市民の皆さん一人一人が誇りを持てる地  
元・小田原へ、互いに支え合い、一緒に汗を  
流していきましょう。

2009年、「小田原まちづくり元年」がスタートしました。今年は、小田原にとって、どのような1年になるのでしょうか。新年の抱負、今後のまちづくりの方向性について、市政の舵取り役である2人に語っていただきました。

開かれた議会を目指し、さらなる改革に取り組み、  
小田原のまちづくりに一層の情熱を注いでいきます。

### 変化に対応できる体制づくり

昨年は、ノーベル賞や北京オリンピックを  
はじめ世界の舞台において多くの日本人が活  
躍し、歴史にその名を刻みました。

一方、多くの生活必需品の値上げや産地偽  
装問題などの食の品質を問われる事件、年金  
問題や都市における集中豪雨の多発など、国  
内では私たちの日常生活にかかわる問題が多  
く発生したほか、サブプライムローンを発端  
とした世界的な混乱は、金融市場のみならず  
我が国の実体的な経済にまでさまざまな影響  
を及ぼしています。このような変化の激しい  
時代の中、地方自治体は将来を見据えつつ、

変化に対応できる体制を整えることが求めら  
れています。

### 広域連携で「地方政府」の検討を

現在の小田原には、少子高齢化をはじめ環  
境保全や地域経済の活性化、行財政改革など  
将来を左右する問題は数多くありますが、そ  
の中でも、市民ホルルの建設や駅前再開発事  
業については、喫緊に方向性を見出すことが  
必要です。そこで昨年、本市では四つの課題  
別検討委員会が立ち上げられ、まちづくりに  
おける重要懸案の解決に向け具体的な協議が  
始まりしました。議会としては各検討委員会の

動向に注視するとともに、今後の施策の展開  
に対して的確に対応し、その役割を十分に果  
たしていきます。

また、少子高齢化や環境保全などの将来に  
向けた問題については、多くの市町村が抱え  
る共通の問題となっており、自治体間の広域  
的な連携により対応することが必要でありま  
す。これらの問題を解決するためにも、また、  
地方分権の推進により増加する地方自治体と  
しての責務を果たすためにも、私たちの住む  
県西地域が団結し、住民に最も身近な基礎的  
自治体である「地方政府」へと発展する可能  
性について、具体的に検討する時機にあると  
考えています。

### 市民の皆さんの幸せを第一に

小田原は今、加藤市長という新たなリー  
ダーを迎えさまざまな手法によるまちづくり  
が進められているところです。いくつかの事  
業については従来の方向性の見直しを検討さ  
れています。私たちが与えられた時間は有  
限であり、今後、着実な成果が上がるよう  
に議会と行政が両輪となって努力しなければ  
なりません。私は、市政に携わる者として、また、  
議会を代表する議長として、昨年導入した議  
会インターネット中継をはじめ開かれた議会  
を目指し、さらなる議会改革に取り組むと  
ともに、小田原のまちづくりに一層の情熱を注  
ぐ決意を新たにしているところであります。

市議会としても、市民の皆さんの幸せを第  
一に考え、市政発展のためさらに努力してい  
きますので、今後とも変らぬご支援、ご協力  
をお願いします。



小田原市議会議長

## 大野 眞一

新年明けましておめでとございます。

本年が皆様にとって

明るく良い年でありますことを

心より祈念いたします。



原田スタラさん

小田原はとてもいいところ。  
私の第二のふるさとです。

## 「国際交流」を考えよう

# 外国人、小田原に住む。

小田原に住む外国人市民は約1,800人。  
生活習慣や言葉などの違いから、

「日本は暮らしづらい」と感じるかたもいるでしょう。

しかし、どこにいても自分らしく快適に暮らしたい。  
その願いは、すべての人のものです。

タイ出身で市内在住の原田スタラさん。

国際交流イベントなどでも積極的に活動しています。

今回は彼女と一緒に、さまざまな国の人たちが

「共に生きる」ということについて考えていきます。

◎文化交流課 ☎331703

### 日本に来て驚いた

スタラさんはタイで日本人とタイ人との通訳をやっていました。とはいっても、日本語が話せたわけではなく、独学で覚えた英語を使っていた仕事でした。「そこで知り合った日本人男性と結婚したんです」。そして日本に来たのが17年前のこと。

初めて日本に来て、東京を車の窓から見ました。「ビルばかりと思っていたら、緑があるのでびっくり！今思えば当たり前ですけどね」と笑います。「小田原は富士山も見えてとてもすてきなところだなんて、まず思いました。それと、小田原と箱根の気温が違うでしょ。こんなに近くなのって、驚きました」

### 日本語を学びたい

「日本に来て、一番困ったのはやっぱり言葉」。今は日本語が堪能なスタラさんですが、初めは言葉の違いに戸惑いました。

「病院へ行っても、自分の病状が伝えられない。私、日本に来て間もなく入院したんです。うまく自分の体調のことも伝えられません。看護師さんに尋ねられても、適当に答えちゃって」と笑って話しますが、そのときは深刻だったはず。

「でも、周りの患者さんを含めてみんな優しく、おばあちゃんには編み物まで教えてもらったの。日本語もたくさん教えてもらって、あの入院から日本語が上手になったんです。出産も日本の病院みんな親切で、いい時間でしたよ」。入院がいい時間だったなんて、前向きに物事を考えるお手本ですね。

### 通訳ボランティア

スタラさんが経験したように、言葉が分からな



いろはの会

### 西村敏秋さん

いろはの会を始めて11年。  
楽しいから続けられています。

いと毎日の生活も大変です。特に、行政窓口での手続きや通院では、なおよさら。そこで市では、相談に応じて通訳ボランティアを派遣しています。現在、登録されているかたは中国語、ポルトガル語、フィリピン語など11言語です。外国語の通訳が必要なきは文化交流課にご相談ください。

スダラさんも、このボランティアに登録しています。「自分も困ったときは人に助けられたから、今度は私がお手伝いしたいと思っています」

#### ボランティアの日本語教室

そのほかにも、ボランティアが教える日本語教室があります。その一つ、「いろはの会」の西村敏秋さんにお話を伺いました。

「初心者には50音の発音から始めて、日常よく使うあいさつと自己紹介へと進みます。私たちの教室では、基本的にはほぼ日本語だけでマンツーマン指導をしています。この会ではインド、中国、ペルーなど、さまざまな国のかたが学習していますよ。皆さんとても熱心で、上達するのが本当にうれしい。日本語を習いたい人が近くにお住まいだったら、ぜひ一声かけてあげてください。予約なしでも大丈夫ですので、お気軽にどうぞ」

#### いろはの会

- ①月曜10時30分～12時  
おだわら国際交流ラウンジ
- ②火曜10時30分～12時  
市民活動サポートセンター
- ③金曜19時30分～21時  
市民活動サポートセンター  
1回1000円
- 小田原海外市民交流会にほんごクラス  
水曜18時30分～21時  
生涯学習センターけやき  
無料

#### 国際交流の拠点「おだわら国際交流ラウンジ」

市内に住んだり、活動したりする外国人のための施設もあります。スダラさんもよく使うこのラウンジには会議スペースがあり、国際関係団体などが利用できます。

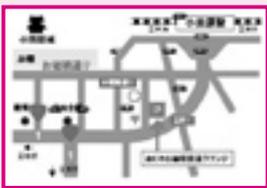
「私はここで子どもたちに英会話を教えています。駅の近くで便利なんですよね」。打ち合わせができるフリースペースや、お茶を自由に飲める休憩コーナーもあります。

また、市民主催の小さなイベント「ティーサロン」では、日本や海外の文化紹介や国際関係団体の活動発表などを行っています。

このほかにも、ラウンジでは、外国人向けに生活・防災・観光などの情報を多言語で提供しています。インターネット閲覧用のパソコンもあります。「この施設があることを知らない外国のかたも多い。ぜひ、周りの人へ教えてあげてほしいです」

#### 【国際交流ラウンジ】

栄町駐車場3階  
☎24-7760



栄町駐車場



### 広瀬渚さん

「イエス・ノーがはっきりしているマンリー市は、私に合っているかも」



### 渡辺絵梨子さん

「温かいチュラビスタの人たち。帰るときは涙があふれて…」

#### 情報紙よりも人とのつながり

外国人に情報を伝える手段は、インターネットをはじめとしてパンフレットなどさまざま。「パンフレットよりも、周りの人から口コミで教えてもらう情報が役に立つんです。それに日本語の勉強にもなるし、やっぱり人とお話しするのが一番」とスタラさんは、人とのつながりの大切さを語ります。周囲とよい関係を築き、ネットワークをつくること。それは簡単なようで難しい、とても大切なことです。生まれた国や文化は違って、同じまちで暮らす仲間たち。外国人も日本人も共に暮らしやすいまちをつくるために、私たちは何をしたらよいのでしょうか。

#### まず関心を持ってみよう

#### 「そっだ、地球市民フェスタへ行こう」

世界にはどんな国があるのか、興味を持つことから始めてみましょう。それにうつつけなのが、毎年2月にマロニエで行われる地球市民フェスタ。これは、県西地区最大の国際交流のお祭りです。さまざまな国の料理、歌や踊りなどを楽しめるのです。

スタラさんも毎年タイ料理で参加しています。「私が生まれた国のことを、小田原の皆さんにも知ってもらいたい。今年はタイカレーを作ります。とてもおいしいですよ」

#### 文化が違うって面白い

地球市民フェスタには、海外姉妹都市・友好都市との交流を行っている「小田原海外市民交流会」と「ときめき国際学校実行委員会」も参加しています。

昨年の夏、姉妹都市アメリカ・チュラビスタ市

との交流に参加した渡辺絵梨子さんは、チュラビスタでの経験をこう語ります。「初対面のホストファミリーに、いきなり抱きすくめられてびっくり。国民性の違いを感じました。就職活動中ですが、ぜひ色々な国の人々と触れ合える仕事に就きたいと思います」

「ときめき国際学校」でオーストラリア・マンリー市を訪れた高校1年生の広瀬渚さん。「こちらがオープンになれば、相手もオープンになることに改めて気がつきました。英語が堪能じゃなくても、面と向かえば気持ちは通じます。ときめき国際学校に参加して、将来の夢が、よりはつきりしてきました」

二人の話から「相手のことを、相手の国のことをもっと知りたい」という気持ち交流を深めているのだと分かります。

来年度の派遣生の募集は、広報おだわらなどでご案内します。

#### 国際交流で大切なこと

外国のかたちと共々生きることを「多文化共生」といいます。その第一歩は相手を知ることから始まります。

しかし、実際には言葉の壁もあり、地域や行政に外国人市民の声が届きにくいのが現状です。今後は、市は国際関係団体やボランティアに協力をお願いしながら、外国人市民のニーズを把握する方法を検討していきます。

では、私たちが外国人と接するときに大切なことは何でしょう。

日本語教室いろはの会の西村さんは「外国人と接するとき、日本人は英語を話さなくちゃって、まず構えるでしょ。普通につきあえばいいんですよ。まず普通に日本語で話しかければいい。身ぶり手ぶりでもいいでしょう。だいたい相手が英語

◆1月のティーサロン  
「日本のお正月」

書き初め、すごろく、福笑い、かるたなど、日本の遊びを楽しみましょう!  
1月17日(土)13:30~15:00

主催 小田原海外市民交流会  
申込 文化交流課まで直接ご連絡ください。

◆海外姉妹都市青年交流事業

姉妹都市・アメリカ合衆国カリフォルニア州チュラビスタ市と本市の青少年が、お互いの国を訪れています。



今年度はそれぞれ4人の派遣生が、ペアになってホームステイをしながら2週間を互いの国で過ごしました。派遣期間中は、お互いの文化に触れたり、ボランティア活動を行ったりしながら相互理解と親善を深めました。

自分の持つ語学力はもちろん、行動力をフルに活用して外国で活躍してきた派遣生たち。この貴重な体験は彼らを大きく育ててくれました。この体験を小田原のため自分のために生かしてくれることでしょう。

◆ときめき国際学校

小田原の中・高校生がオーストラリア・マンリー市の生徒と交流する「ときめき国際学校」。彼らは1対1のペアを組み、ペア同士でホームステイをし、今年度はお互いの国でそれぞれ11日間ずつのさまざまな交流を行いました。

7,900キロも離れたまちで生まれた彼らは、異なる言葉や文化、環境で育ち、今年、このときめき国際学校で出会いました。

言葉が通じないもどかしさを感じつつも、何とか気持ちを伝えたい、そして、その気持ちを分かりたい、こうしたお互いの歩み寄りが、彼らを強い「絆」でつないでくれます。

交流を終えた彼らは、今でもメールなどでこの「絆」をより太く、強くしているようです。



【「地球市民フェスタ」～楽しもう! 多文化の出会い～】

2月15日(日)10:00~16:00 川東タウンセンター「マロニエ」

楽しい雰囲気の中で、多国籍のかたがたが共に触れ合い、共に生きる仲間として理解し合うイベントです。

◆世界の歌と踊り

特設ステージで世界の歌と踊りを堪能しましょう。フラダンス/二胡/ゴスペル/ディジュリドゥ(アボリジニの楽器)など

◆世界の味

世界の料理に舌鼓 シシカバブー/韓国のチヂミ/イラン料理/タイ料理/ベトナム料理など

◆展示・バザー

国際交流団体の活動のようすを展示。交流先の民芸品の販売もありますよ!

◆体験コーナー

ふだん、体験できないものばかり。この機会にぜひチャレンジ! 手作り甲冑・着物・タイ衣装・インド衣装の試着/ぶんぶんゴマ作りなど

◆映画「無料」上映

イスラエルの建国とともに70万人以上のパレスチナ難民が誕生した。そのとき、何が起こったのか…。世界のほとんどが何も知らない。2008春公開 長編ドキュメンタリー映画 -パレスチナ1948- NAKBA

ほかにもあるお楽しみイベント!

- 交流スタッフ～外国籍の“たすき”をかけたスタッフが会場のあちこちに。気軽に声をかけて、楽しく交流しましょう!
- おさるぼりん～中庭に巨大“おさる”現る!
- スタンプラリー～会場内をくまなく回り、スタンプ10個集めて、ステキな賞品をゲットしよう!



みんなが住みやすい社会

「が話せるかどうかも分からないんだから」と日本語が話せない外国人と11年接してきた経験から語ります。スダラさんも自らの経験から、次のように語っていました。「国際交流っていつても、問題はイベントや集まりに参加するかどうかだから、日本人とか外国人とか関係ないと思うのね。もつとみんなとお話して、もつと世界のことを知りましょうよ。何もやらないより何かやったほうが悔いが残らないでしょう?」

日本にきたときには、戸惑うばかりだったスダラさんも、今は子育てをしながら、小学校でタイの紹介をしたり、地域でタイ料理の教室を開いたり、すっかり小田原の暮らしになじんでいます。そして、それも「いろいろな人と出会うことが大好きだから続いているんです」  
外国人が住みやすい社会は、日本人にとっても住みやすい社会になるはず。日本人のあなたも、時には外国人の気持ちになって小田原を眺めてみましょう。ふだん見えない何かが見えてくるかもしれませんよ。

# かかりつけ医が、 あなたの生命いのちを守ります

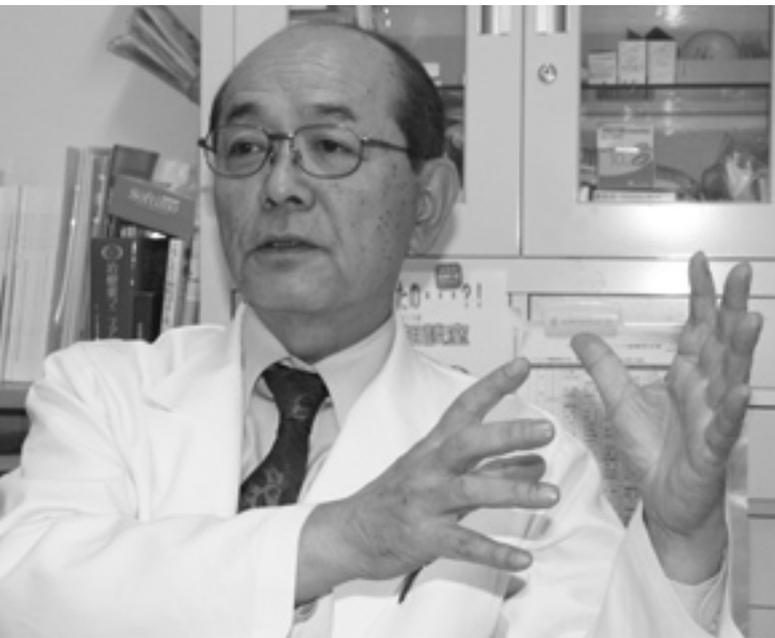
今、地域医療は、医療機関相互の連携、在宅医療の取り組み、救急体制の在り方など、さまざまな課題に直面しています。

市民の皆さんが適切な相談や処置を受けることのできる「24時間安心安全の体制づくり」に向けて、共に手を取り合い、考えましょう。明日の、未来の私たちのために。

健康づくり課 ☎470820

小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町をエリアとする小田原医師会は、年中無休の一次救急を市保健センターで行っています。また、皆さんとの交流の場として公開講座などを行っています。また、さらに開かれた医師会を目指して平成7年にスタートしたのが地域医療連携室です。

連携室では、医療機関の案内、医療や介護保険の相談、かかりつけ医の紹介などを行っています。相談件数は年々増加しており、昨年度は3,000件を超える相談が寄せられました。そのため、今年度から、より専門的な医療相談等に対応するため、さまざまな診療科の医師が交替で、ほぼ毎日、相談に応じる時間を設けています。これからも医療機関相互の連携を促



小田原医師会 会長 伊藤 進さん

## 日ごろの生活を振り返ると

体調が悪くなったときや何か体の変化が気になるとき、皆さんはどうしていますか。また、日ごろから健康上の悩みなどを抱えてはいないでしょうか。ご家族が同じような不安を抱えていることも、あるかもしれません。身近な医療問題への相談や適切な処置は、だれもが望むことです。

また、そうした皆さんの思いは、地域医療機関が抱える課題と密接に関連しています。安心して安全な暮らしの実現、そのためには何をすべきでしょうか。どういったことに配慮し、互いに支え合うことが必要なのでしょうか。

## 身近な窓口・地域医療連携室

市民の皆さん一人一人のニーズに十分に対応、よりよい医療環境を提供する一翼を担うのが地域医療連携室です。

かかりつけ医や在宅医療・介護保険の主治医の紹介、リハビリ医療・一般医療の相談など、患者やご家族の不安を取り除くようにサポートしています。

### 【地域医療連携室】

場所 保健センター3階  
相談日時 月～土曜日  
9時～12時、13時～17時  
(祝日及び年末年始は除く)

※土曜日の午後は医療機関の案内のみ

電話 4708333  
ファクス 493766  
Eメール [oditiki@triton.ocn.ne.jp](mailto:oditiki@triton.ocn.ne.jp)

進し、地域全体で支え合う真の意味での地域医療を目指していきます。

かかりつけ医を持つこと、それが上手な医者へのかかり方です。地域医療連携室へご相談ください。

救急医療は、他の診療科と異なり、予定を組んで行動することができません。救急隊から患者さんの情報が入ると、迅速かつ慎重にそして丁寧に対応するように心掛けています。

また、容体の急変など予期せぬことにも柔軟に幅広く対応できるように努力しています。救急科は患者さんにとってはかかりつけ医ではなく、ご本人やご家族のかたが不安を抱くことのないように気をつけています。

救急車は、多いときには日中だけで1日に15回以上来ることもあり、搬送件数の増加はもとより、集中傾向も年々高まっています。市立病院が急性期病院として、高度で専門的な医療を提供していくためには、地域の医療機関との密接な連携と機能分担が必要であると強く感じています。

そして、皆さん自身が日ごろから相談できる医師を持ち、健康管理に関心を寄せていけば、救急患者となることを未然に防ぐことも可能となるでしょうし、もしそうなった場合でも健康状態を把握できているので、結果として皆さん自身の安全と安心が図られることになると考えています。

親しみの持てる  
医師会の窓口として  
「地域医療連携室」

救急医療の現状に  
ご理解を  
「市立病院救急科」



市立病院救急科 医師 大濱 史朗さん

かかりつけ医を持ちましょう

また、ちよつとした風邪やけが、健康管理の手助けをしてくれる身近なお医者さん、「かかりつけ医」を持つことは、とても大切です。ふとした気掛かりなことがあるときに気軽に相談できると安心です。生活環境・疾病経過などを十分に分かっているかかりつけ医なら、患者の細かな体調の変化まで気がついてくれる。すぐに大きな病院へ行かなくても、かかりつけ医とこつとした関係を築くことができれば、より一層充実した生活を送ることができます。

市立病院が直面すること

県西地域の中核的な病院である市立病院は、高度で専門的な医療、救急、産科・小児科医療など多様な医療の提供を行っています。万が一の病気やけがの際に多くの市民の皆さんのよりどころとなる一方で、全国的な医師、看護師不足などから医療に従事する職員の環境は大変厳しい状況にあります。

また、限りある医療資源を有効に活用し、効率的な医療を提供するためにも地域医療機関との連携や役割分担は、特に重要な課題です。

明日の、未来の私たちのために

地域と市民の皆さん一人一人がつくる医療体制は、互いの健康や安心安全な生活へとつながります。そして、市立病院をはじめとする医療機関相互の連携へと結びつき、皆さんの生命を守り続けていくのです。明日の、未来の私たちを描く「支え合いの心」。ともに地域医療を見詰め、考えていきましょう。



### コラム 3 市民一人いくら使われているの？

皆さんが納めた税金は、都市基盤の整備や学校教育、福祉・子育て環境の充実など、さまざまな事業に使われています。

○福祉や子育て環境の充実のために(民生費)	84,721円
○防災対策、住民登録や市庁舎の維持管理などのために(総務費)	44,905円
○道路や公園の整備、まちづくりのために(土木費)	41,312円
○借入金の返済のために(公債費)	32,790円
○学校教育・社会教育施設の整備、文化財の保護のために(教育費)	32,079円
○健康や医療対策、ごみ処理などのために(衛生費)	30,567円
○市民を火災や水害などから守るために(消防費)	11,114円
○商工業・観光の振興のために(商工費)	6,103円
○議会の運営などのために(議会費、労働費、諸支出金)	4,439円
○農業・林業・水産業の振興のために(農林水産業費)	4,276円
<b>市民一人に使われる合計額</b>	<b>292,306円</b>

(平成20年3月31日現在の住民基本台帳による人口197,279人で計算)

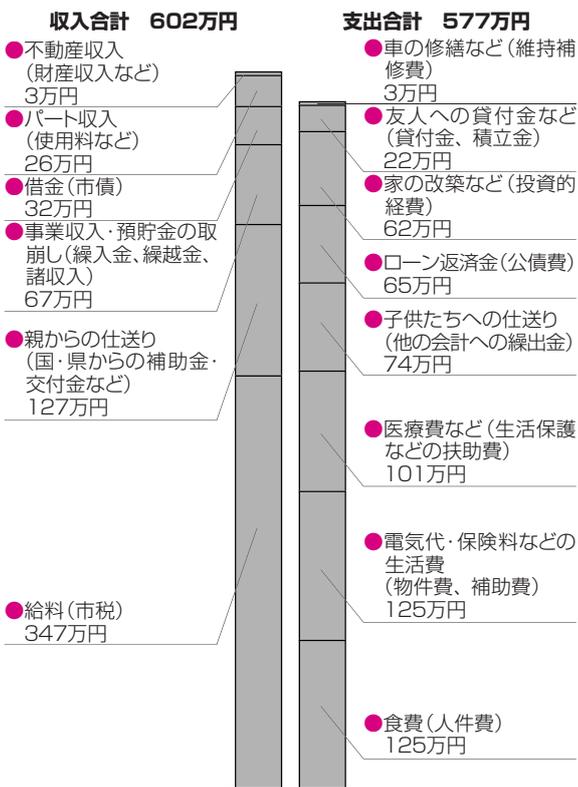
市民一人当たりの市税納付額  
17万5,653円

市民1人に  
使われる合計額  
29万2,306円

#### 【家庭に置き換えると？】

決算を身近に感じていただくために市の一般会計を家計簿に置き換えてみました。

1年間の家計の収入と支出を一般会計総額の1万分の1とすると、次のようになります。



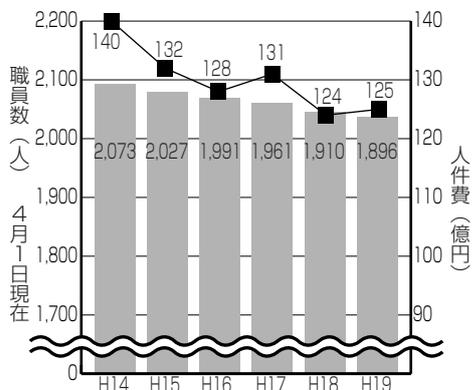
収入(602万円)と支出(577万円)の差額25万円は次年度へ繰り越します。

### コラム 1 義務的経費から見る財政の推移

義務的経費は、支出が義務づけられていて自由に減らせない経費で、人件費・扶助費・公債費がこれに当たります。支出に占めるこの経費の割合が高いと、自由に使えるお金が少なくなるため、財政の硬直化が進み、弾力的な運営が難しい状況にあるとされます。

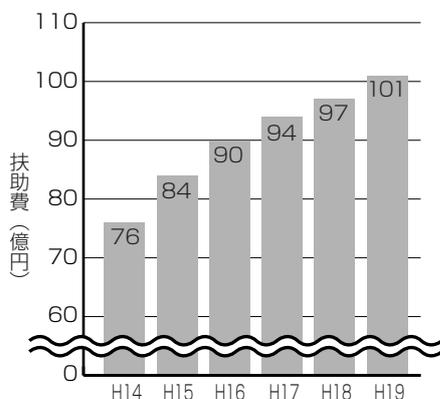
#### ●人件費

議員や各種委員の報酬、職員の給与など、勤労の対価として支払われる経費です。市では職員数の適正化と人件費の削減に努め、ピーク時(平成6年度)の2,338人から、平成20年度までに462人の職員を減らしています。



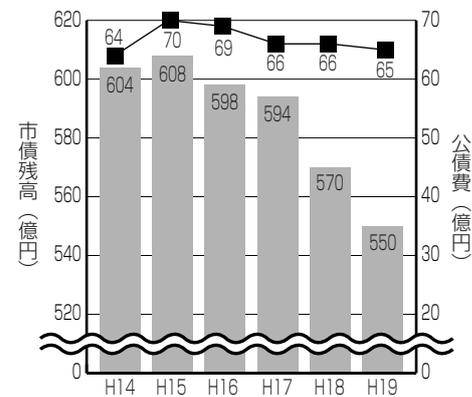
#### ●扶助費

社会保障制度の一環として支給される費用です。生活保護費や児童手当、医療費助成、就学援助費などがあります。高齢化の進展や少子化対策など、社会情勢に応じた福祉施策により増え続けています。



#### ●公債費

公共施設の建設などの、市の資産形成につながる特定の事業などのために、国や県、民間などから借りた市債の償還金とその利息です。市債には、費用の世代間の負担を調整する機能もありますが、財政が厳しくなる要因でもあるので、借り入れには慎重に対応しています。



### コラム 2 財政指標～経常収支比率って？

市税など用途が特定されていない収入が経常的な経費に充てられている割合を示す指標です。

数値が低いほど財政の弾力性(ゆとり)があるとされますが、近年は各自治体とも厳しさが増しています。

なお、市の19年度決算における経常収支比率は前年度に比べ4.1ポイント悪化していますが、これは算定方法が変更されたためです。

全国市町村平均	92.0%
県内市町村平均	89.6%
本市	89.7%

平成  
20年度

# 市民功労賞・市民榮譽賞が決定！ 栄えある賞は、このかたがたに

市民功労賞は、学術・文化・福祉・産業など市民生活のさまざまな分野において功績のあったかたに、市民榮譽賞は国や世界レベルで大きな記録を樹立したり、成果を上げたりすることで、市民の皆さんに明るい希望と誇りを与え、小田原の名を高めたかたにお贈りしています。今年度の受賞者が次の皆さんに決まりました。贈呈式は1月12日(祝)に市民会館で行います。

☎文化交流課 ☎33-1703



### 【市民榮譽賞】

加藤勇次さん

2008年4月に開かれた世界マスターズベンチプレス選手権大会(パワーリフティング・ベンチプレスマスターズ3の部)で、世界記録を樹立し、優勝されました。



### 【市民功労賞】

コール・めんどり

長年にわたり音楽を通して地域に根づいた活動をし、多くの市民に感動を与えました。小田原ゆかりの楽曲も多く取り上げ、本市の文化振興に大きく寄与されました。



### 【市民功労賞】

西島邦好さん

長年にわたり地域の清掃及び緑化活動に取り組み美しい街並みづくりに尽力し、また市民の環境意識の高揚に貢献されました。



### 【市民功労賞】

石川一明さん

NPO法人小田原市障害者福祉協議会会長、小田原市肢体障害者福祉会会長、小田原市肢体不自由者父母の会会長、(財)神奈川県身体障害者連合会副会長を歴任し、障害者福祉の増進・向上に尽力されました。

※この賞は、市民のかたがたからの寄附金をもとに設置した「小田原市ほう賞基金」により運営しています。



小田原  
彩時記

## 県境を越えて、 37市町村長によるサミットを開催

〔S. K. Y. 広域圏市町村サミット〕

企画政策課 ☎33-1239

11月21日(金)に、山梨県富士吉田市で「第9回富士箱根伊豆交流圏市町村サミット」が開かれました。これは神奈川県・山梨県・静岡県内の37市町村が、富士箱根伊豆地域の

を一つの圏域ととらえ、県境を越えた交流を進めるために実施しているものです。当日は各市町村長が一堂に会し、3県の知事らをお迎えして、基調講演のほか、広域的な振興策、連携策

について意見交換が行われました。

これまでの9年間で積み重ねてきた信頼関係の上で、具体的な取り組みを可能などころから進めていく旨が合意されました。

来年は10周年という節目であり、S. K. Y. 広域圏のさらなる連携を図っていきます。

※S. K. Y. 広域圏とは静岡県(S)、神奈川県(K)、山梨県(Y)の頭文字を取ったもので、富士箱根伊豆地域を意味しています。



(左から)井上さん、佐藤さん

## 小田原看護専門学校

# キラリ★若人!

みなぎる可能性、描く夢、そして、奏でる未来。このコーナーでは、若者たちの活躍する姿やメッセージをお届けします。

私たちの暮らしと密接にかかわっている地域医療。少子高齢化社会の到来とともにその重要性はますます高まっています。創立から40数年、市民の皆さんと歩み続けてきた同校では、世代を越えて、多くのかたが看護の道を志されています。

「看護学科に所属しています。准看護師として医療現場に携わってきた経験を生かし、今は在宅訪問を担当しています。ご年配のかたが、人生の最後の時をご家族に見守られながら迎えるという現場に立ち会うことができます。また、ご家庭での看護は病院よりもさらに慎重などが求められ、責任が重い分、そのやりがいも実感しています。仕事に、勉強に充実した毎日です」(井上さやかさん、小台在住)

「准看護学科で看護師を目指し日々、課題に取り組んでいます。医療現場は未経験ですが、市立病院での実習(3日間)では、たくさんの貴重な経験を積ませていただくことができました。患者さんの自立を支援するということの必要性、心身共にさまざまなサポートをするには、創造力がとても大切です。より一層のスキルアップを図り、いつ、どんな現場にも臨機応変に対応できるようにになりたいと思います」(佐藤智子さん、中里在住)

「家族や同僚、地域のかたなど周囲の皆さんの励ましや協力があるからこそ、目標へ邁進することが出来ます。本当にありがたいです」と笑顔の奥の真剣なまなざしで語ってくれた2人。子育て真っ最中(井上さんは1男1女、佐藤さんは2女)の、お母さんナースは、とても心強く頼もしい限りです。

## ニュース NEWS

### 深き音色を響かせて20年 小田原北條太鼓の会

小田原の創作太鼓の会として活動してきた小田原北條太鼓の会(会員数56人)が、間もなく結成20周年を迎えられます。

小田原で開かれた「ときめき小田原まつり」の一環として平成元年に市が会員を募集、1年にわたり林英哲さんの指導を受け、平成2年4月に活動を開始されました。けいこは、平均週1回、舞台などでの演奏は多いときで年50回を越え、20年間の総演奏回数は700回を数えます。

特に小田原北條五代祭りや小田原ちようちん夏まつり、酒匂川花火大会や城下町おだわらツアーデーマーチなど市の大きなイベントには毎年出演、平成7年には市民功労賞を受賞されました。

一昨年4月には「林英哲アコースティックライブ」(市民会館)で念願の師弟競演が実現、次世代への文化継承のため、10歳未満の子どもたちを対象に幼児部教室(月2〜3回)も開いています。

昨年9月27日・28日には、東京・国立劇場という大舞台で公演「人智千響」に出演、今後ますますの活躍が期待されます。



# 身近にある 小田原の史跡 〜 芦子・山王原・網一色地区編 〜

私たちの身近に数多く残る史跡は、それぞれの土地の成り立ちや先人たちの暮らしぶりを静かに物語っています。日々変化するまちなみの中で、郷土の歴史を記憶にとどめ、次の世代に伝えていきましょう。

最終回は芦子・山王原・網一色地区。

文化財課 ☎331714

よく晴れた冬の休日の昼下がり、太郎君はお母さんと一緒に、酒匂橋の近くの八幡神社にやってきました。

**太郎** この辺りで、旧東海道は今の国道から少し北側を通っていて、酒匂川を渡ってきた旅人は小田原の宿場へ向かったんだ。街道沿いにはお寺がたくさんあり、北条氏の時代にはお店が板橋の辺りまで建ち並んでいたんだって。

**母** あら、よく知っているわね。

**太郎** お父さんに教わったんだよ。江戸から小田原までは20里(約80km)ぐらい。車も電車もなく、一泊二日ぐらいかかったんだって。

**母** 昔の人は大変だったのね。  
**太郎** 旧東海道を歩いてみようよ！

**母** いいわね、そうしましう！

**太郎** 八幡神社から南へ進



上杉龍若丸の墓



八幡神社 絵・順正

**母** み、国道を渡るよ。小田原総合ビジネス高等学校の正門前を通るのね。あらっ、道の両端にあるのは石の欄干かしら？

**太郎** そうだよ。ここには、千貫文の費用がかかったと伝わる千貫橋という石橋があったそうだよ。その先の十字路を右に曲がった辺りには、川会所があったといわれているんだ。

**母** 酒匂川に仮橋が架かる期間以外は歩行渡して、旅人は川会所で川札を買って、川越人足に手渡して、手を引かれたり、肩に担がれたり、輦台に乗ったりして川を渡ったのよね。

**太郎** そうだよ。国道に合流したら、道沿いにまっすぐに進むよ。

**母** 山王小学校の校門の前にある祠は何かしら？

**太郎** あそこには、戦国時代に小田原の北条氏と戦った関東管領の上杉憲政の嫡男で、13歳のときに殺されてしまった上杉龍若丸がまつられているんだ。

**母** まあ、13歳で！恐ろしいわね。

**太郎** 僕は平和な時代に生まれてよかった!! さあ、山王橋を渡るよ。

**母** りっぱな松の木がある神社ね。

**太郎** 山王神社だよ。豊臣秀吉が攻めてきた小田原合戦の時には、この辺りにお城の防衛を目的に作られた篠曲輪があったんだ。徳川家康の家臣・井伊直政との間の合戦でも激しい戦いがあった場所なんだって。

**母** 歴史の舞台になった場所なのね。

**太郎** 少し行くと山王口だよ。

**母** あらっ、江戸口見附って書いてあるわね？  
**太郎** 小田原の江戸側の出入口は柵形のあった山王口(江戸口)で、番所が置かれていて、これを見附と言って旅人を監視していたんだよ。

**母** なるほど。太郎は随分、小田原のま

ちのことを知りたかったのね(驚)!!  
**太郎** うん！僕、もつともつと小田原のま



「身近にある 小田原の史跡 川西版」  
を刊行しました

この本を片手に、小田原のまちを歩いてみませんか。

販売場所  
行政情報センター(市役所4階)、市立図書館、かもめ図書館、文学館  
1冊700円

# 早春のおもてなし ～小田原食楽～

小田原の老舗料亭にゲストをお招きし、トークや落語、演奏を楽しんだ後で老舗の味を堪能していただき、小田原の食文化、魅力を再発見してもらおうというイベントです。  
多彩なゲストとともに過ごす、ぜいたくな時間と空間をお楽しみください。

【日時／場所／ゲスト】



2月7日(土)  
レストラン澤亭  
俳優  
合田雅史さん



2月11日(祝)  
割烹清風楼  
落語家  
柳家三三さん



2月14日(土)  
料亭大松  
音楽評論家・作詞家  
湯川れい子さん



2月21日(土)  
だるま料理店  
フルート  
池田みゆきさん



ギター  
池田宏里さん



3月4日(水)  
千世倭楼 大清水  
作家  
夢枕獺さん

【開催時間】17:00～20:30(ただし、3月4日は18:00～21:00) 【定員】各日とも30人  
【参加費】各日とも1万円(お食事代) 【申込】電話またはファクスで。 ※定員になり次第、締め切ります。

主催 街なかにぎわいプロジェクト実行委員会

☎・☎ 産業政策課 ☎33-1519 ☎33-1286

## NEWS

### 海を渡る「二宮金次郎像」の 出発式を生家前で開催

尊徳記念館 ☎362381

昨年6月、日本人のブラジル移民100年を記念して、松沢成文神奈川県知事がブラジルを訪問した際、在サンパウロ神奈川県人会から寄せられた「近代日本文化の象徴として、サンパウロ市内に金次郎像を設置したい」との要望に応え、ブラジルに渡ることになった「二宮金次郎像」の出発式が11月28日(金)、尊徳記念館の二宮尊徳生家(県指定重要文化財)前で開かれました。

出発した像は、薪を背負い読書する、なじみ深い姿の石像(高さ85センチ)で、報徳博物館の平塚

分室に設置されていたものです。渡航費用など必要な経費は、すべて募金で賄うことになり、松沢知事や河野洋平衆議院議長のほか、尊徳のふるさと小田原を代表して加藤憲一市長も募金呼びかけ人名を連ねました。

当日は、好天に恵まれて、松沢知事、加藤市長、報徳博物館の草山昭館長のほか200人近い関係者や報道陣、一般市民らが参列し、地元報徳保育園の園児たちによる「唱歌「二宮金次郎」の愛らしい合唱などが、式典に花を添えました。





連載  
**学校自慢!**  
 このコーナーでは、小・中学校でのユニークな取り組みを紹介し、子どもたちの生き生きとした表情を見ると、小田原の未来も安心!という気持ちになりますね。  
 教育政策課 ☎33-1671

今月号は…  
**町田小学校**  
 (児童数: 331人)

地域と一体となった活動  
 「クリーン作戦」

町田小学校では、「町のごみを減らし、町をきれいにしよう」をテーマに子どもたちの企画・立案で、保護者・地域などのボランティアに呼びかけて行う『クリーン作戦』が10年以上続けられています。これは環境委員会が中心になり、全校を縦割りにした仲良し班が協力して、ボランティアのかたと一緒に担当エリアの清掃活動を行うものです。

恒例の行事として地域のかたの関心も高く、子どもたちと一緒に活動を楽しみに参加するかたが多いことが、子どもたちの励みになっています。参加したかたには、環境委員会が育てた花の押し花のしおりやお礼状を作って感謝の気持ちを伝えていきます。

今年度のクリーン作戦にも、保護者や自治会の役員さんをはじめ、地域のたくさんのかたがボランティアとして参加しました。中には、近くのスーパーマーケットでポスターを見て参加したかたや町田小のクリーン作戦に合わせて地域で清掃をしたかたもいました。

昨年よりは少なかったですが、子どもたちは全班で集めたゴミの量を見て、学区をきれいにしたという満足感を味わうことができました。

クリーン作戦を通して、自分たちが住んでいる地域にゴミが落ちていたこと、まだ使える電化製品が捨てられていたこと、たばこの吸い殻がたくさんあったことなどに気づくことができました。

クリーン作戦での体験を子どもたちの環境教育に生かし、今後も地域のかたと一体となった活動を目指していきたいと思っています。



まつだ ひろき  
**松田 宏規**さん  
 (6年生)

僕は仲良し班の班長です。クリーン作戦の準備は大変でしたが、当日はケガもなく安全に行うことができました。ゴミを拾う場所は狭いけど、いっぱいありました。僕たちがクリーン作戦を行った場所は町田小学区の一部ですが、いっぱいゴミが拾えてよかったです。これからも、地域がきれいになるようにがんばります。



いとう ゆうじ  
**伊藤 祐司**さん  
 (6年生)

僕は環境委員会の一員なので、代表委員会でクリーン作戦のことを提案しました。地域のかたが協力してくれたので、小学生では取れないところのゴミも取れてよかったです。昨年よりは少なかったけど、まだゴミがあるので来年は減ってほしいなと思いました。ゴミが減るように、これからも紙のリサイクルなどをしていきたいです。

おだわら  
**花通信**

さまざまな花に彩られ、四季折々の表情を見せるおだわら。毎月、花の名所を紹介します。

その20

小田原フラワーガーデン

☎フラワーガーデン ☎34-2814  
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/park/o-furawa.html>

市の花である「梅」。バラ科の仲間、中国が原産です。早咲きの梅は、12月中旬ごろから蕾がふくらみ始め、1月初旬には寒さの中、春を告げるかのように花が咲き始めます。そのことから「春告げの花」の別名を持ちます。フラワーガーデンの「溪流の梅林」には、約200種480本以上の梅が咲き誇り、早咲き、中咲き、遅咲きと順番に開花していきます。3月上旬ごろまで存分に梅の花をお楽しみいただけます。



早咲きの梅  
 八重寒紅



冬至